

2022 年 3 月 18 日

東洋紡バイオテクノロジー研究財団 2021 年度研究助成贈呈式を実施

公益財団法人 東洋紡バイオテクノロジー研究財団(所在地:大阪市北区、理事長:津村準二、以下「当財団」)は、2 月 21 日(月)、東洋紡本社(大阪市北区)にて、2021 年度の研究助成贈呈式を実施しました。本年度は、バイオテクノロジー分野の若手研究者 4 人に対し、総額 2,200 万円の研究助成金を贈呈します。



オンラインで開催された贈呈式

当財団は、東洋紡株式会社(本社:大阪市北区、代表取締役社長:竹内郁夫、以下「当社」)の創立百周年を記念し、1982 年に設立。バイオテクノロジーの分野において研究助成を行い、その成果を通じて社会に貢献することを趣旨としています。海外留学を助成する「長期研究助成」の受贈者は、本年度を含めて累計 214 人となり、多くの方がバイオテクノロジーの研究や教育の第一線で活躍しています。

新型コロナウイルス感染防止のためオンラインで開催された 2 月 21 日の贈呈式には、当財団より理事長の津村準二(当社名誉顧問)、選考委員長を務める近藤滋理事(大阪大学大学院生命機能研究科教授)らが出席。受贈者 4 名に対して、留学先での研究に向けた応援の言葉が贈られました。

理事長あいさつ

当社のバイオ事業は、レーヨンの原料であるパルプの廃液処理に関する研究から始まりました。その後、診断薬用酵素や遺伝子解析技術へと発展し、今では主要事業の一つとなっています。受贈者の皆さまには、当財団の助成金を有効に活用いただいて、充実した留学生活を送ることで、将来バイオテクノロジーの発展に貢献する研究者になられることを切に願っています。

長期研究助成受贈者一覧

氏名	所属	留学先	研究テーマ
北村 友佳 キタムラ ユカ	埼玉医科大学大学院 医学研究科	University of California, Davis	ポリコーム依存的な染色体高次構造を介した 精子形成制御機構の解明
佐伯 翼 サエキ ツバサ	慶応義塾大学大学院 医学研究科	Indiana University	ヒト多能性幹細胞由来内耳オルガノイドを 用いた内耳前駆細胞の分離培養技術の開発
豊田 康祐 トヨダ コウスケ	熊本大学大学院 医学教育部	NIH National Cancer Institute	がん代謝に関連する乳酸輸送担体 MCT1 および 4 を標的とした小分子化合物の探索と CAR-T 療法の開発研究
山口 智子 ヤマグチ トモコ	大阪大学大学院 生命機能研究科	Charles University	合成生物学と構造生物学による生命初期の リボソームの再構築と機能構造解析

受贈者コメント

(北村 友佳さん)

哺乳類の精子形成について研究をしています。ポリコーム抑制複合体が遺伝子発現をどのようにして適切に調整しているかを把握し、その構造を解明することで、将来的には不妊治療などへの応用を目指します。

(佐伯 翼さん)

留学先では、難聴患者の病態を体外で再現することや、創薬スクリーニングなどへの活用を目的とした、内耳オルガノイドから有毛細胞や支持細胞に分化する内耳前駆細胞の単離・拡大培養の技術開発に取り組みます。

(豊田 康祐さん)

血液細胞のがん、中でもウイルス学的な発がんについて研究しています。がん細胞により発現量が増加する乳酸輸送担体 MCT1 および MCT4 分子を標的とする治療法について研究し、がん治療の発展に貢献したいです。

(山口 智子さん)

留学先では、合成生物学と構造生物学の双方の知見を活用して、初期地球のような環境でリボソームやリボソームの生み出すたんぱく質がどのように生まれたかを研究し、生物が誕生する最初のステップを自ら再現したいと考えています。

以上

<お問い合わせ先>
公益財団法人 東洋紡バイオテクノロジー研究財団
事務局 石田
電話:06-6348-4111 FAX:06-6348-3696
E-mail: bio_fund@toyobo.jp
<https://www.toyobo.co.jp/biofund/>